

# コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2022年3月21日

新型コロナ対策としてベータコロナウイルス科すべてに有効なワクチン開発に  
4200万ドル投資決定

## 【松崎雑感】

コロナウイルスは、2018年までに、人類の生存を脅かすかもしれない2回のジャブをわれわれにもたらしました。一つはSARS（2002年に広東省から発生。2003年8月までの9か月の間に全世界32か国において、死亡者774例を含む8,096例の発症例（致死率9.6%））、もう一つはMERS（2012年カタールから発症。感染2千名。死亡700名）です。いずれも致死率と反比例して世界には広がらなかったのですが、新型コロナはこれらの「前座」を1万倍上回る死亡をもたらしました。次はどうなるか！？コロナにおびえる人生はもう嫌だ！という事で、コロナウイルス科感染症を防ぐ万能ワクチンの必要性が大きくなっているのです。

新型コロナ対策としてベータコロナウイルス科すべてに有効なワクチン開発に4200万ドル投資決定

Mahase E. Covid-19: Coalition pledges \$42m to develop broad protection vaccine against betacoronaviruses. **BMJ**. 2022 Mar 9;376:o628. doi: 10.1136/bmj.o628. PMID: 35264322.

「感染症流行対策イノベーション連合（CEPI：セピ）」は、SARS、MERS、新型コロナなどのベータコロナウイルス科に幅広い有効性を持つワクチン開発に4200万ドルを支出することを決定した。

このワクチン開発はケンブリッジ大学が立ち上げたバイオテクノロジー企業 DIOSynVax社が行う。

DIOSynVax社は、新型コロナの変異しやすいスパイク蛋白をターゲットとしたワクチンは目指さず、ウイルスが死んだり複製機能を失わなければ変異しない、コロナウイルスに共通した部位をターゲットとしたワクチンを目指すという事だ [1]。

もう少し詳しくいけば、開発チームは、vaccine antigen payload（ワクチン抗原ペイロード）と呼ばれるmultiple synthetic antigens（複数の合成抗原）を用いて、抗原構造体を決定することになる。

この抗原構造体は、mRNA、アデノウイルス、蛋白ベースプラットフォームなど様々な搬送テクノロジーによって、細胞内に送り込まれ、コロナウイルス科に対する抗体を誘導する。

この資金提供は、3月8日に、イギリス政府とセピが主催したGlobal Pandemic Preparedness Summit in Londonで発表された。

この資金提供合意にあたり、DIOSynVaxは、セピの公平なアクセス方針を遵守する事を確認した[2]。

ケンブリッジ大学比較病理学教授でリサーチリーダーのジョナサン・ヒーニー氏は「来るべきパンデミックに備えて、極めて多くの亜種を持つコロナウイルスのような複雑なウイルスに特化した万能で有効なワクチン抗原を作ることが、この研究の目的であり、成功したなら、安全で、安価で世界のすべての人に提供できるワクチンとなるだろう」と語った。

セピのCEOリチャード・ハチェット氏は次のように語った。

「セピはDIOSynVaxとのパートナーシップを通じてイギリスの科学界と堅いつながりを作り上げたが、このつながりをさらに強めて、将来新型コロナウイルスのあらゆる変異株とその他のコロナウイルス科に対する万能ワクチンを作ることができることを期待する」

コロナウイルスがパンデミックを引き起こす能力があることは間違いない。

今後、世界のすべての人々の健康を守るためのワクチン開発にしっかり投資することが至上命令となっている」